

## 編集後記

## 【編集後記】

昨年10月から、編集委員会に参加させて頂いております。昨年9月に三重大学で開催された第46回熱測定討論会において、「生体系の熱力学」をテーマにしたシンポジウムで講演をさせて頂きました。大学院生も口頭発表し、シンポジウム発表もさせて頂くのに、本学会員でないというのは誠に失礼かと思ひ、昨年3月に大会参加の申込みと同時に本学会に入会させて頂きました。本学会では新人であり、不慣れで行き届かない面も多々あるかと思いますが、何卒よろしくお願い致します。

編集後記紙面を利用して、簡単な自己紹介をさせて頂きます。大学院修士課程卒業後約20年の間に、外資系製薬企業、財団法人研究所、公立短期大学、そして公立大学と渡り歩いております。大学院では、ESRを用いて植物の光合成の電子伝達系のメカニズム解析を、製薬企業では、気管支喘息や骨粗鬆症薬開発のための薬理学的研究（動物実験も含む）を、財団法人研究所では、酵素蛋白質の構造と機能の相関を調べるために、分子生物学、生化学的手法や蛍光、CDやNMRなどの分光学的手法を用いた研究を行い、短大教員時代によくDSCやITC等の熱測定と出会います。現在は、生体内輸送蛋白質を用いた難水溶性薬剤のドラッグデリバリーシステム（DDS）の開発、寄生虫の核酸合成系酵素をターゲットにした創薬の基礎研究や、ポリグルタミン病をモデルとした神経変性疾患発症の分子機構解明などに取り組んでいます。最近は特に、ITCにハマっており、蛋白質とリガンドとの相互作用や熱力学的パラメータの決定によく利用しております。ITCを用いることにより、蛍光分光法では見えなかった（見ようとしていなかった？）stoichiometryもはっきり見えるようになりました。熱測定が「すごい」と感じた瞬間です。

21世紀の生命科学研究では、分子生物学を含めた生化学から、目的分子の構造機能解析等を担う生物物理学、そして細胞、組織、生体レベルでの情報伝達機構、及び作用機序解明のための薬理学や生理学にいたる幅広い知識が必要になります。特に、メディカルバイオ分野において、信頼性の高い結合親和性や熱力学的パラメータを決定できる熱測定の果たす役割は非常に重要で、今後益々重用されることでしょう。（乾 隆）

## 【複写される方へ】 Notice about photocopying

本会は下記協会に複写に関する権利委託をしていますので、本誌に掲載された著作物を複写したい方は、同協会より許諾を受けて複写して下さい。但し（社）日本複写権センター（同協会より権利を再委託）と包括複写許諾契約を締結されている企業の社員による社内利用目的の複写はその必要はありません。（社外頒布用の複写は許諾が必要です。）

権利委託先：（中法）学術著作権協会

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル, TEL. 03-3475-5618, FAX. 03-3475-5619, E-mail: info@jaacc.jp  
 なお、著作物の転載・翻訳のような、複写以外の許諾は、学術著作権協会では扱っていませんので、直接発行団体へご連絡ください。また、アメリカ合衆国において本書を複写したい場合は、次の団体に連絡して下さい。

Copyright Clearance Center, Inc., 222 Rosewood Drive, Danvers, MA 01923, U.S.A.  
 TEL. +1-978-750-8400, FAX. +1-978-646-8600

## 2011年度「熱測定」編集委員会

（委員長） 猿山 靖夫

（編集委員） 乾 隆, 小川 英生, 川上 亘作, 清水 由隆, 中別府 修, 橋本 拓也

（拡大編集委員） 内山 進, 神崎 亮, 林 英子, 本多 英彦, 三木 久美子

熱測定 Vol.38, No.2, 2011

平成23年3月25日 印刷

昭和52年5月27日 第4種郵便物（学術刊行物）認可

平成23年3月31日 発行

発行人 日本熱測定学会 吉田 博久

事務局 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-6-7 宮沢ビル601

TEL. 03-5821-7120 FAX. 03-5821-7439 E-mail: netsu@mbd.nifty.com

熱測定原稿 E-mail: edit@netsu.org

学会ホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jscta/index.html>

郵便振替口座 00190-5-110303

